

配合変化表

2022年10月 改訂

急性循環不全改善剤

ドパミン塩酸塩点滴静注液200mgキット 「KCC」
ドパミン塩酸塩点滴静注液600mgキット 「KCC」

〈日本薬局方ドパミン塩酸塩注射液〉

ネオクリティケア製薬株式会社

急性循環不全改善剤
ドパミン塩酸塩点滴静注液200mgキット「KCC」
ドパミン塩酸塩点滴静注液600mgキット「KCC」
 〈日本薬局方 ドパミン塩酸塩注射液〉

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1袋（200mL）中に下記成分を含む。

		ドパミン塩酸塩点滴静注液 200mgキット「KCC」	ドパミン塩酸塩点滴静注液 600mgキット「KCC」
有効成分	ドパミン塩酸塩	200mg	600mg
添加物	ブドウ糖	10g	
	亜硫酸水素ナトリウム	60mg	
	pH調節剤	適量	

2. 性状

本剤は無色澄明の水性注射液で、pH及び浸透圧比は次のとおりである。

	ドパミン塩酸塩点滴静注液 200mgキット「KCC」	ドパミン塩酸塩点滴静注液 600mgキット「KCC」
pH	3.0～5.0	
浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	約1	

【pH変動試験】

1. 試験方法

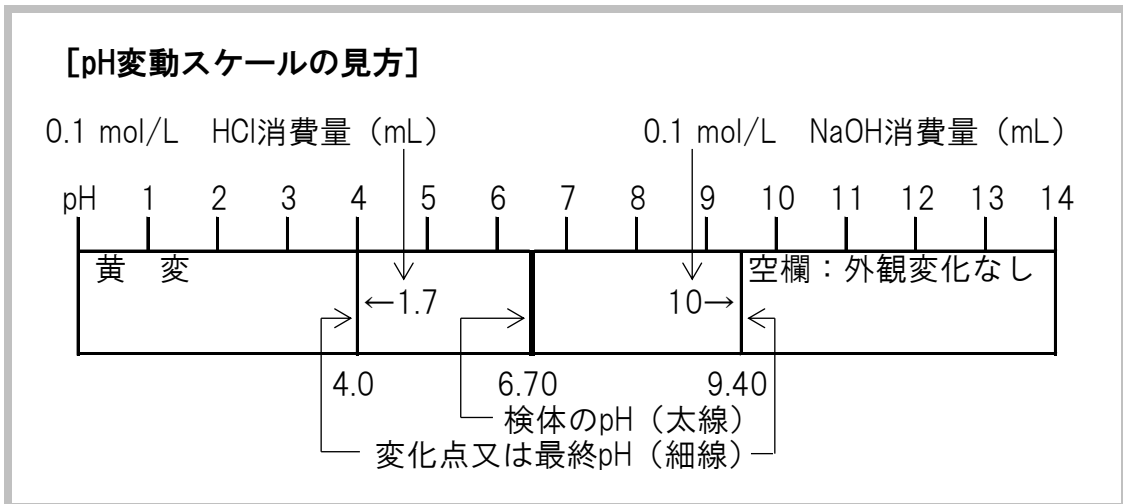
(1) 試料

1管あるいは1瓶中の容量が10mL以上の場合は10mLを試料とした。
 1管あるいは1瓶中の容量が10mL以下の場合は、その容量を試料とした。

(2) 外観変化及び変化点pHあるいは最終pH

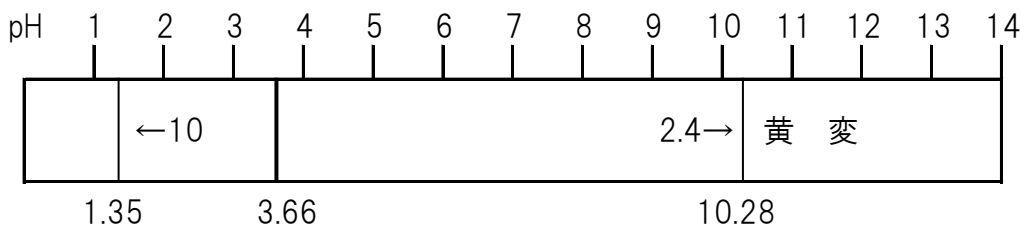
0.1mol/L塩酸溶液、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液を使用し、変化する場合には変化点pHと溶液量を記し、変化のない場合は、両溶液の10mL滴下時のpH（最終pH）を測定した。

2. 試験結果



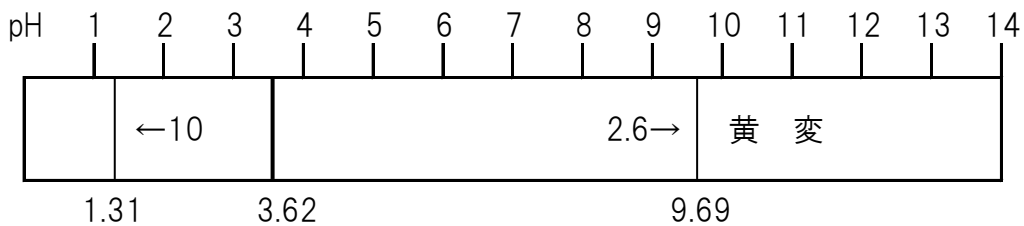
○ ドパミン塩酸塩点滴静注液200mgキット「KCC」

規格pH：3.0～5.0



○ ドパミン塩酸塩点滴静注液600mgキット「KCC」

規格pH：3.0～5.0



【 配合変化試験 】

1. 検体

本剤 1 袋（200mg/200mL, 600mg/200mL）を検体とした。

2. 試験方法

検体に対し他製剤（試験結果に示した配合量）を混合し、室温、散光下に24時間保存した。

3. 試験結果

自社での試験及び配合変化の文献 {注射薬配合変化早見（薬事新報社）} に基づいて、次項の配合変化表を作成した。

【配合変化表】

【配合変化表の見方】

外観変化あり：明らかな外観変化を認めた

外観変化なし：外観変化を認めなかった

溶解液を使用した場合は、配合量の欄にその種類と容量を記載した。
種類の記載方法は下記の通りである。

Sal.：生理食塩液，D.W.：注射用水、GL：5%ブドウ糖

外観変化あり

製品名（メーカー名） ^{注1)}	配合量 ^{注2)}	外観変化
アレピアチン注250mg（大日本住友）	250mg 5mL	直後混濁，沈殿
ソルダクトン静注用200mg（ファイザー）	200mg GL2mL	直後混濁，沈殿
ファンギゾン注射用50mg（プリストル・マイヤーズ）	50mg D.W.10mL	直後混濁，沈殿
アシクロビル点滴静注用250mg「アイロム」（アイロム）	250mg D.W.10mL	24時間後色調変化
重ソー静注7%「NS」（日新）	7% 20mL	24時間後色調変化

外観変化なし

24hr

製品名（メーカー名） ^{注1)}	配合量 ^{注2)}	外観変化
アクトシン注射用300mg（第一三共）	300mg D.W.5mL	外観変化なし
アザクタム注射用1g（エーザイ） ^{注3)}	1g D.W.10mL	外観変化なし
アドナ注（静脈用）100mg（田辺三菱）	100mg 20mL	外観変化なし
硫酸アミカシン注射液「日医工」100mg（日医工）	100mg D.W.5mL	外観変化なし
アミサリン注100mg（第一三共）	100mg 1mL	外観変化なし
アルギメート点滴静注10%（エイワイファーマ）	200mL	外観変化なし
インデラル注射液2mg（大日本住友）	2mg 2mL	外観変化なし
エフェドリン塩酸塩注射液	40mg 1mL	外観変化なし
カシワドール静注（アイロム）	20mL	外観変化なし
カルチコール注射液8.5%10mL（日医工）	10mL	外観変化なし
グリセノン注（アイロム）	200mL	外観変化なし
ゲンタシン注60（MSD）	60mg 1.5mL	外観変化なし
サクシゾン静注用500mg（興和）	500mg Sal.6mL	外観変化なし
スキサメトニウム注40「AS」（アステラス）	40mg 2mL	外観変化なし
シオマリル静注用1g（塩野義）	1g D.W.10mL	外観変化なし
ジゴシン注0.25mg（中外）	0.25mg 1mL	外観変化なし
セフォビッド注射用1g（富士フィルムファーマ）	1g D.W.10mL	外観変化なし
セフメタゾン静注用1g（第一三共） ^{注3)}	1g D.W.10mL	外観変化なし
ソル・メドロール静注用40mg（ファイザー） ^{注3)}	40mg D.W.1mL	外観変化なし
タチオン注射用200mg（長生堂）	200mg Sal.3mL	外観変化なし
デカドロン注射液（MSD）	2mg 0.5mL	外観変化なし
デトキソール静注液2g（日医工）	10% 20mL	外観変化なし
テラプチク静注45mg（エーザイ）	45mg 3mL	外観変化なし
ドパミン点滴静注100mg「アイロム」（アイロム）	100mg 5mL	外観変化なし
トブラシン注60mg（東和）	60mg 1.5mL	外観変化なし
ニトロール注5mg（エーザイ）	5mg 10mL	外観変化なし

外観変化なし

24hr

製品名（メーカー名） ^{注1)}	配合量 ^{注2)}	外観変化
ネオシネジンコーワ注5mg（興和）	5mg 1mL	外観変化なし
ネオフィリン注250mg（エーザイ）	250mg 10mL	外観変化なし
強力ネオミノファーゲンシー静注20mL（ミノファーゲン）	20mL	外観変化なし
ノルアドリナリン注1mg（第一三共）	1mg 1mL	外観変化なし
水溶性ヒドロコトシト注射液500mg（日医工）	500mg 10mL	外観変化なし
注射用パニマイシン100mg（Meiji Seika） ^{注3)}	100mg D.W.5mL	外観変化なし
パンスポリン静注用1g（武田） ^{注3)}	1g D.W.10mL	外観変化なし
ビクシリン注射用2g（Meiji Seika）	2g D.W.20mL	外観変化なし
ピソルボン注4mg（日本ベーリンガー）	4mg 2mL	外観変化なし
ビタC注25%（アイロム）	500mg 2mL	外観変化なし
ビタミンB1・B6・B12注射液	10mL	外観変化なし
ビタメジン静注用（第一三共）	D.W.20mL	外観変化なし
注射用フサン10（鳥居）	10mg GL5mL	外観変化なし
水溶性プレドニン20mg（塩野義）	20mg Sal.2mL	外観変化なし
プロスタルモン・F注射液1000（小野） ^{注3)}	1mg 1mL	外観変化なし
プロタノールL注0.2mg（興和）	0.2mg 1mL	外観変化なし
フロリドF注200mg（持田）	200mg 20mL	外観変化なし
ベストコール静注用1g（武田） ^{注3)}	1g D.W.10mL	外観変化なし
ペルサンチン静注10mg（日本ベーリンガー）	10mg 2mL	外観変化なし
ペントシリン注射用1g（富山化学）	1g D.W.10mL	外観変化なし
ボスミン注1mg（第一三共）	1mg 1mL	外観変化なし
ホリゾン注射液10mg（丸石）	10mg 2mL	外観変化なし
ミラクリッド（持田）	2.5万単位 Sal.5mL	外観変化なし
ミリスロール注5mg/10mL（日本化薬）	5mg 10mL	外観変化なし
ミルリーラ注射液10mg（アステラス）	10mg 10mL	外観変化なし
メイセリン静注用1g（Meiji Seika）	1g D.W.10mL	外観変化なし
メキシチール点滴静注125mg（日本ベーリンガー）	125mg 5mL	外観変化なし
メチロン注25%（第一三共） ^{注3)}	25% 1mL	外観変化なし
モダシン静注用1g（G S K）	1g D.W.10mL	外観変化なし
ラシックス注20mg（サノフィ）	20mg 2mL	外観変化なし
リスモダンP静注50mg（サノフィ）	50mg 5mL	外観変化なし
リンコシン注射液600mg（ファイザー）	600mg 2mL	外観変化なし
リンデロン注4mg（0.4%）（塩野義）	4mg 1mL	外観変化なし
注射用ルシドリアル250mg（共和薬品）	250mg Sal.10mL	外観変化なし
ルネトロン注射液0.5mg（第一三共）	0.5mg 1mL	外観変化なし
ワソラン静注5mg（エーザイ）	5mg 2mL	外観変化なし

注1) 製品名及びメーカー名は2014.04時点の保険薬事典（じほう発行）に準拠した。

注2) 配合量は製品の含量及び注射液量又は希釈液を表示した。

注3) アザクタム注射用1g、ソル・メドロール静注用40mg、注射用パニマイシン100mg、パンスポリン静注用1g、プロスタルモン・F注射液1000、ベストコール静注用1g、メチロン注25%については色調変化をみとめたが、参考文献（医薬ジャーナルVol.25 No.10,1989）によるとこれらの製剤は単独で徐々に変色・増色が認められることから、ドパミン塩酸塩点滴静注液キットとの配合変化による外観変化ではないと推測した。